

最大瞬間風速からの地震予知(8) - 地震の原因からの予知 - Earthquake prediction from peak gust(8)-Earthquake prediction from cause of earthquake-

猿渡 隆夫^{1*}

Takao Saruwatari^{1*}

¹ なし

¹ none

1. 地震の原因

仮説は検証しなければならない。まさにこの考えに基づき、まだ検証されていないマントル対流説に疑問をもち地震の原因を探究した。

そして、今までの多くの大地震(気象情報が必要なことから2000年以降の大地震)から、台風から温帯低気圧になる時と低気圧が発達する時の運動エネルギーの大きい下降気流の強風が地殻に衝突し、しばらくして、衝突地点で大地震を起こすことが分かった。

衝突から地震発生までのタイムラグについては人造地震(人間が起こした地震)

・大きなダムに貯水を開始後地震が発生している。

・地下深部に放射性廃水を捨てた時も地震が発生した。廃棄を止めたら次第に収まった。

などで証明されている。さらに、風向とメカニズム解の軸が一致することから力学的にも証明された。また風のエネルギーの方が地震のエネルギーより大きいと推定され問題ないとする。

この下降気流の強風は衛星画像においてドライスロット(雲のない領域)として見る事ができる。その先端(あるいは根本)が震央になっていることが分かった。顕著なドライスロットがある場合にはM6.5以上、顕著なドライスロットがない場合にはM6.5以下と推定される。

発生時期は、1週間後から7か月後です。平均的には3か月後である。

以上を2010年10月の地震学会で発表している。

そして、東北地方太平洋沖地震にて、上述の方法によって地震予知ができることが実証され、2011年5月のJPGUにて発表している。

<http://www2.jpgu.org/meeting/2011/yokou/MIS036-P85.pdf>

2010年12月3日15時の衛星画像図と震源断層図(京大HPから)を示した。それらの図からドライスロットの先端部と震源域とが一致しており、まさに風力が地震の原因であることを示すとともに、地震の発生場所、地震の大きさ、地震のメカニズム解の予知ができることを示している。

南海トラフを構成するフィリピン海プレートでの巨大地震の発生は、8月から2月に限られさらに12月に多いという季節性が報告されています。これは、巨大台風が9月に多く来て、約3か月後にその地震が発生することの証明になっています。マントル対流説では説明ができません。

「マントル対流によってプレートに蓄積された歪のエネルギーが、ある限界を超えたときエネルギーを解放して地震が発生する」との仮説が間違いであることが証明された。

2. 最近の予知例

2011年2月18日低気圧 2011年3月15日 静岡県東部の地震 M 6.4

2011年9月22日台風15号(5時の衛星画像) 2012年03月14日 三陸沖 M 6.9

2012年6月07日台風03号(3時の衛星画像) 2012年12月07日 三陸沖 M 7.4

キーワード: 最大瞬間風速, 地震予知, ドライスロット, 衛星画像, 地震の原因

Keywords: peak gust, earthquake prediction, dry slot, satellite image, cause of earthquake

SSS30-P02

会場:コンベンションホール

時間:5月20日 18:15-19:30

